

B-1 消化管内寄生虫虫卵集

爬虫類の便検査を行うと、さまざまな寄生虫卵やシスト、動いている寄生虫を観察することができます。写真や図解入りで爬虫類の寄生虫の種類それぞれについて詳しく説明している本はあまりないので、はっきりした名称がわからなかったり分類できなかったりするものも少なくありません。それらも含めてここで紹介していきます。

説明のところにある動物種は、その写真の寄生虫がいた個体を記載しています。

まずはコキシジウムシストですが、コキシジウムシストでも、検査をするとたくさんの形が見えます。どれも簡単にコキシジウムと呼んでいますが、いろいろな属に分かれていて、それによってシストの形も大きさも異なります。

写真 1



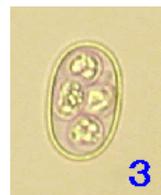
ウスタレカメレオン♂
Furcifer oustaleti

写真 2



ジャイアントフィッシャー
カメレオン♂
Bradipodion fischeri

写真 3



パンサーカメレオン
(マロアン) ♀
Furcifer paradalis

写真 4、5、6



ピンクパンサー♀ *Furcifer paradalis* 3種類全て同一個体より検出

写真 7



線虫卵
 ちょうど仔虫が孵化するところ
 ころです。

写真 8



線虫卵
 写真 7、8、9 は同一個体
 のウスタレカメレオン♂よ
 り検出。

写真 9



右下に蓋が付いています。
 不明卵です。織毛虫シスト
 かもしれません。

写真 10



パンサーカメレオン
 (デルマ) ♂
Furcifer paradalis

写真 11

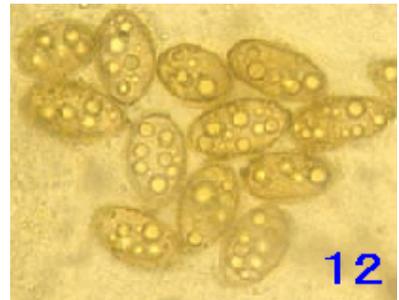


パンサーカメレオン
 (マロアン) ♀
Furcifer paradalis

線虫卵。虫卵の中に仔虫が
 とぐろを巻いています。

参照 (類似卵と成虫)
 ⇒A-2 写真 4 ~ 6

写真 12



吸虫卵
 カーペットカメレオン
Furcifer lateralis

写真 13



ピンクパンサー♂
条虫卵

写真 14

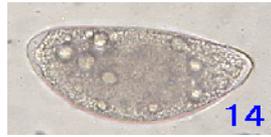


写真 14~16
メラークアメレオン
Chamaeleo melleri
不明卵 (吸虫?)

写真 15



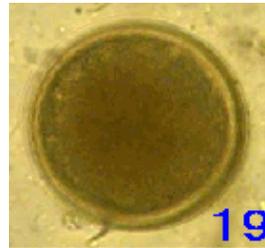
線虫卵

写真 16



線虫卵
(蛋白膜付回虫卵)

写真 17、18、19



ピンクパンサー♀同一個体より。

17、18は内容物の発達段階の違い、だけで同種の線虫卵、19も同種が何らかの原因で変形したように思いますが、外膜が異なる気もするので別種の線虫卵かもしれません。

写真 20



パンサーカメレオン
(サンバーバ)♂
Furcifer paradal(Sambava)

31gでひどく削瘦していた症例から検出されたもの。
繊毛虫のシストか、吸虫卵のようですが…

写真 21



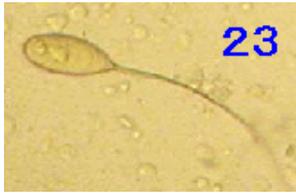
さらに2日後に再検査したところ、写真20と同種のものがこのように内部分裂して成長していました。

写真 22



2日前には確認できなかった線虫卵も見つかりました。

写真 23



フィッシャーカメレオン♂

何の寄生虫でしょうか？実はこれが精子です。

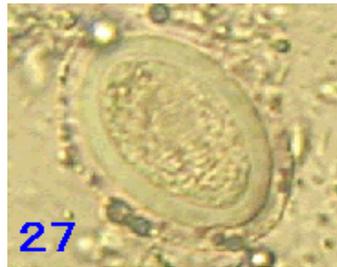
写真 24、25



ピンクパンサー♂

アメーバシストです。シストの大きさにはわりとばらつきがあります。(写真 25 は拡大)

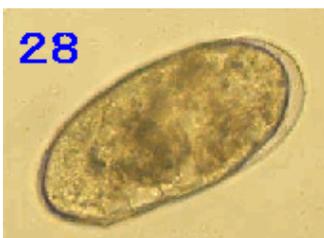
写真 26、27



パンサーカメレオン (マロアン) ♀

はっきりした輪郭の周囲に透明な輪郭で縁取られているあたりが、条虫卵のような感じですが、全体的にぼんやりしていて、内部構造も観察しづらい卵でした。

写真 28、29



ピンクパンサー♂同一個体

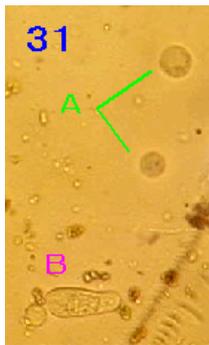
線虫卵ですが、かなり巨大です。
写真 29 では内部が分裂してきています。

写真 30



ピンクパンサー♂
線虫卵

写真 31



ホシガメ *Geochelone elegans*

A：アメーバシスト

B：アメーバ栄養体

栄養体はいわゆる『アメーバ運動』をして移動していきます。

写真 31～35

栄養体が形を変えながら移動していく様子です。

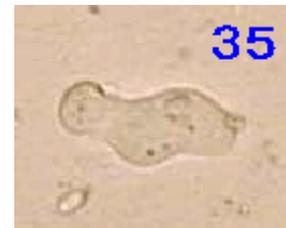


写真 36



ホシガメが排泄した便

検査した個体の便は、固形で外見上は異常なしです。しかし、顕微鏡で観察すると次のようなものが観察できます。

写真 37～40



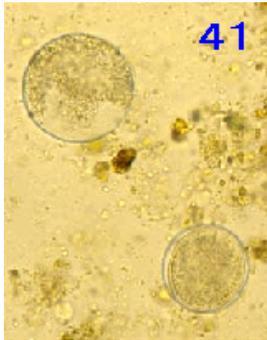
写真 37：蓋付の織毛虫シスト *Nycototherus* spp.

写真 38：殻の中で栄養型がくるくと動いています。栄養型の縁にはぐるっと 織毛がついていて、それらがさかんに動き、移動します。顕微鏡下では、織毛が動いて栄養体が進むさまがはっきりと観察できます。

写真 39：栄養型がシストの蓋部分から出ようとしています。かなりくびれてむりむり出口に突っ込んでいます。

写真 40：うっかり顕微鏡にぶつかって振動をあたえてしまいました。栄養型は、そのせいかどうか知りませんが再び殻の中に戻ってしまいました。出ようとしていた出口の蓋がなくなっていますね。

写真 41、42

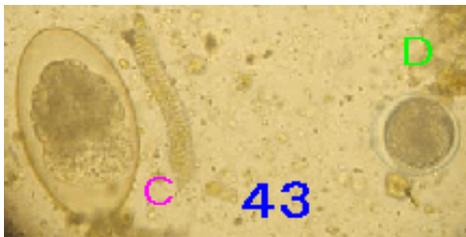


同一のホシガメ個体から。別の種類の繊毛虫シストです。この写真の2つは大きさがかなり異なりますが、同種です。小さな方で上の例のシストの1/2程の大きさです。

写真 42：拡大。

このシストでも内部で栄養体が動くのを観察しています。

写真 43、44

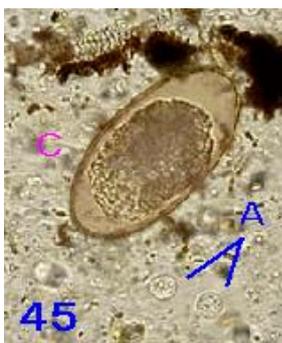


ギョウチュウ卵拡大

同一のホシガメ個体から。

C：ギョウチュウ卵 D：上記の丸型繊毛虫シスト
大きさの対比を見てください。

写真 45



ヒョウモンガメ *Geochelone pardalis*

A：アメーバシスト C：ギョウチュウ卵

大きさの対比を見てください。

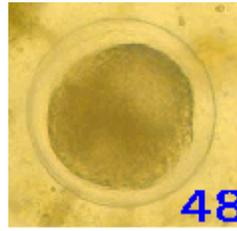
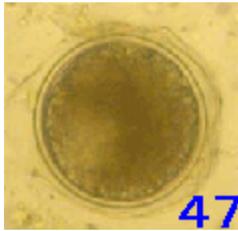
写真 46



ギリシャリクガメ♀ *Testudo graeca*
線虫卵

参照（成虫虫体）⇒ D-1 写真 19

写真 47、48



ヒヨウモンガメ♀

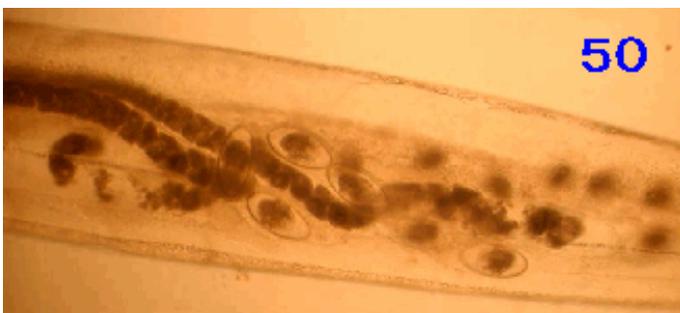
丸型の繊毛虫シスト

写真 49、50



ギリシャリクガメ♀

ギョウチュウ虫体を観察したところ。



卵のある部分の拡大